



会 報

白日会

第97回 白日会展

令和3年3月17日(水)～29日(月)

会場：国立新美術館

一昨年1月に上陸した新型コロナウイルスとその対策の為、第96回展は絵画部のみの施行にて、さらに展示は完遂するもの的一般公開は叶わず、大型巡回展も中止となりましたが、第97回展は緊急事態宣言の隙間にあつて、本展ならびに巡回展、各選抜展は全て開催することができました。

授賞式・会長挨拶

中山忠彦

本日は皆様この様な時期に関わらず多数ご出席を頂きましてありがとうございます。

昨年は大変残念ながら開会直前まで行きましたけれども、開



会ができずに終わってしまいました。その分、今年に関する期待が大きいものであります。展覧会そのものは、ご覧頂いたように大変内容の濃い、2年分を圧縮したようないい作品が並んでおりまして、私どもはコロナに負けずいい時間を過ごしていたんだとかえって自信をもったような次第であります。

作品に対応しまして、先入観なしでその作品に接し、挙手をし、授賞作を決めさせて頂きましたから、今年は特に内容の濃い作品群が揃ったことだと思います。

それはもう皆さん方が会場でご覧になる通り、そしてこの会場に集まった受賞者の方々の顔触れを見ても、さすがと思われるものがあります。本当におめでとございました。

この時代であればこそ、芸術の意味というものを問われま

す。それに対して白日会がどう応えていくか、作家自身がどう応えるかということは、作品で見て頂く以外にありません。その意味で、私どもは勿論、皆さん方も会場から色んなものを教えておられるというふうな想像しております。

審査の内容は、白日会は特に、多種多様な意見をもつて、誰かがリードするという事も無く、和気藹々とした非常に良い審査風景でありました。それは今年に限らず、例年がそうでありまして、あるいは白日会の伝統、伊藤清永先生の頃から同じような審査でありました。伊藤先生はいつも、審査員席の一番前に座っておりまして、先生ひとりが挙手をしたりしているだけで、時々振り向いて今の顔はどうかであったかという顔はなさっておりましたけれども、強制されて手を挙げたりするという事は白日会の審査ではありませんから、非常に公平な審査が徹底して今日に至っている訳であります。そういう意味で、受賞者の皆さん方は自信をもって、今後に臨んでいって頂きたいし、また努力の上で、来年、そして3年後に向かえる100回展で皆さん方が今後は中心になって云を支えていって下さると確信をいたしておりますから、その点宜しく願います。

今後、色んな問題がまだ続いていくと思えますけれども、常に自分の位置を確かめ、芸術において何が出来るかということ

第60号
2022.2
白日会事務所

白日会事務所

〒104-0031 東京都中央区八丁堀四一八二〇二
TEL (03) 六二八〇五二二八 (FAX 兼)
郵便振込 〇〇一九四一三九八二五七 白日会
HP: <http://www.hakujitsu.com>
MAIL: hakujitsu-mail@trad.com.ne.jp

を社会に対するひとつの答えとして皆さん臨まれるよう、どうか宜しく願います。

第97回展概要

事務所・常任委員 寺久保文宣

令和2年(2020年)1月28日に国内初の感染者が認められ、2月に入り感染者は急増した。2月26日、安倍首相は、全国的なスポーツ・文化イベント



▶授賞式会場風景

を2週間に渡り中止、延期、縮小、3月2日から全国の中小学校を春休みも含め休校とする旨を要請し、国立新美術館はそれを受けて2月29日から3月15日までを休館とした。ただし新美術館は16日以降の開館を予定し、展示場は閉鎖されていたが次の企画展の準備は行われ、また公募団体の地下作業場(バックヤード)での作業も可能であった。しかしながら休館延長の可能性もあるととりざたされていた。



▶ 3月10日 授賞審査風景

こうした状況下で開催された第96回白日会展の経緯や状況は

前年の会報に記した。第97回展は、こうした第96回展での未曾有の事態下での開催について、2回の常任委員会での審議を経て前年(令和2年・2020年、11月15日)の総会にて、次の指針を立てて臨んだものであった。

白日会は「白日会定款 第6章 展覧会」、「展覧会の時期」28条 本展は毎年春に1回行うことを基本とする。」を前提としながら、毎年春の本展の開催を目的とし、如何なる事態に関わらず、毎年の展覧会開催とそれに伴う事業計画を遂行するものとするを第一義とした。

しかし、不可避的な内外の非常事態により、やむなく全面的あるいは部分的な、中止や延期、縮小となる場合がある。このような非常事態への対応が緊急であった場合、会長(会長と副会長)を中心とした常任委員で開催方針の意思決定を行うという方式とする。また、たとえ本展開催が中止や延期や縮小となった場合でも、年間運営の全体経費は発生することを確認し、開催の中止や延期、縮小が生じても、在籍者及び一般出品者への

会費・記名料・出品料等の返還は原則として行わないことを会の方針と定めた。つまりは美術館が休館しない限りは開催に向かうという方針にて、本第97回展は絵画部と彫刻部共に開催に向かった。またコロナ禍中での若手作家の応援施策として、35歳以下の一般出品作家の出品料免除処置を行ったが、その為の効果かどうかは分からないが、多くの若手出品者の力作が寄せられた。

第96回展終了直後の4月7日から第一回の緊急事態宣言が5月25日まで発令され、その間公立美術館にて開催される公募団体の全て中止となった。なおこの緊急事態宣言は計4回発令された。

第一回：2020/4/7～5/25
第二回：2021/1/8～3/21
第三回：2021/4/25～6/20
第四回：2021/7/12～9/30

第97回展は2021年の3月7日の搬入に始まり、17日が初日で29日が最終日であった。東京本展と名古屋巡回展は、ちょうど第二回の緊急事態宣言と、第三回の間隙を縫って無事開催

された。名古屋巡回展は、第96回展で一般公開できなかった深澤孝哉前副会長の遺作展示全作の特別陳列を行った。関西展は第三回の緊急事態宣言の最後に被るなどして4日間の開催であったが無事開催された。

選抜展では関西展と併催される近鉄会員選抜展、日本橋高島屋での明日の白日会展(8月)、銀座永井画廊でのデッサン展(11月)、日本橋三越での会員選抜展「英英紅緑」(12月)の各公式準公式の選抜展も無事開催することができた。この間例年施行されている懇親会やパーティーやイベント類は全て中止となった。

一昨年の第96回展にて、新型コロナウイルスの正体の知れぬ第一波の緊張高まる中、中山会長の陣頭指揮の元、全会を挙げて緊張感をもって開催に向けて臨んだ中で、開催運営上の感染症対策のノウハウもある程度確立したが、第97回展はそれを生かしたつ会の構成員が一丸となって開催運営にあたり無事終了した。なお、本展の入場者数は例年の半分の約1万人であったが、こ



のような事態の中多くの白日会に期待を寄せる方々が足を運ばれた。

2020年にインドで報告された新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の新規変異株であるB.1.617.2系統の変異株(デルタ株)は2021年3月下旬に検疫で初めて検出、4月に日本国内で感染者が確認され、8月中には大都市圏でゲノムが解読された症例の約9割がデルタ株になるなど急速に置き換わりが進んだ。第四回の緊急事態宣言とまん延防止等重点措置の中、延期となっていた東京オリンピックが開催され、開催

後の感染拡大の懸念もあつたが、結果的に欧米ほどの猛威とはならず済んだ。

こうした状況下において、8月初頭に予定されていた白日会総会は、秋の総会（2021年11月14日施行）と合併することとなった。先に記した緊急時での開催方針と共に、第98回展の基本方針は、新型感染症対策の継続の方向をとって、97回展同様に、懇親会、イベントは中止、授賞式は縮小形式で行い、研究会については新型感染症の状況を鑑みながら、本部研究会と支部研究会の開催に関する総合判断を、会長と副会長が最終決定していくことになった。

現在、新型コロナウイルスは、オミクロン株が拡大しつつある中であり、第98回展の開催に向かい懸念も大きいところであるが、収束を願いつつ、通常のことが通常に行えることのありがたさをかみしめつつ、第98回展の無事の開催を祈念する次第である。

巡回展報告

名古屋展

中部支部長 竹内 恵

令和3年4月13日(火)〜18日(日)

愛知県美術館ギャラリー

第97回白日会・名古屋展のご報告をさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症流行のため第96回は開催中止となりましたが、今回は、感染対策を行った上、鑑賞にも密を避けて開催致しました。レセプションは中止となりましたが、表彰式は来賓をお迎えしない形で簡略化して行いました。本日より中山会長はじめ中谷先生、寺久保先生にご臨席いただいた上、絵のご批評・ご指導をいただきありがとうございました。

今回は、会場の一角に深澤孝哉遺作展を設け、多くの人に鑑賞していただくとともに先生を偲ぶすばらしい機会となりましたことを心より嬉しく思います。先生には長く名古屋

展の展示指導をいただきました。改めて感謝したいと思います。

入場者数はコロナ禍の中にあつて、やはり減少致しました。しかし有料入場者は95回展とほとんど変わらず、入場者の評判も良く、毎年白日会展を楽しみにしている方々へより良い作品を呈示できるよう改めて心を奮い立たせた次第です。

入場者の減少はありませんが、最終日には、大村秀章愛知県知事にもご鑑賞いただき、全体としては盛況のうちに終了したと考えております。

関西展

関西支部長 児玉 健二

令和3年6月1日(火)〜4日(金)

あへのハルカス近鉄本店ウイング館8F

近鉄アート館

関西支部から第97回白日会関西展の事業報告を申し上げます。

あへのハルカス近鉄本店ウイング館8階 近鉄アート館にて2021年5月31日(月)から6月6日(日)までの開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの緊急事態宣言の延長によりまして、

初日の31日が開けないことになり6月1日からとなりました。また大型商業施設の土日休業という影響によりまして最後の土日が中止となり、実質4日間の開催となりました。開会2日目

が初日になったということでも例年の2割程度の入場者数となり、その後も最終日は少し盛り返しましたが、トータルとして例年の2割程度の入場者数になりました。

会期が5月末6月初めという、コロナの影響が厳しく先の見通せない状況で展覧会を開催

するにあたり、3月4月の準備段階では平常通りの開催に向けての準備が確実に出来たことは大変意義深かったなと思います。

このような難しい時期にもかかわらず関西展を開催できたことは、近鉄百貨店取締役会長が強く開催を後押ししていただいたと伺っており、第97回関西展の継続のために良い前例になることを願っております。

選抜展報告

- ◆近鉄会員選抜展 令和3年6月
あへのハルカス近鉄本店(公式選抜展)
- ◆明日の白日会展 令和3年8月
日本橋高島屋(公式選抜展)
- ◆白日会「テッサン」展 令和3年11月
銀座 永井画廊(準公式選抜展)
- ◆三越会員選抜展 令和3年12月
日本橋三越本店(公式選抜展)



▶名古屋巡回展での深澤孝哉遺作展示風景

第97回白日会展 受賞者推挙者一覧

特別賞

内閣総理大臣賞 河野 桂一郎 (絵画) 兵庫
 文部科学大臣賞 池田 良則 (絵画) 京都
 SOMPO美術館賞

中沢弘光賞 果醐 季乃子 (絵画) 東京
 富田温一郎賞 清家 悟 (彫刻) 東京
 丸山 一夫 (絵画) 新潟
 吉田三郎賞 佐藤 順一 (彫刻) 千葉
 伊藤清永賞 岡田 高弘 (絵画) 茨城
 平松讓 賞 広田 稔 (絵画) 神奈川
 八咫鳥 賞 伊藤 和義 (絵画) 愛知
47回展推挙

会賞

白日賞 有川 利郎 (絵画) 埼玉
(副賞ホルベイン賞)
 白日賞 田中 真季 (絵画) 熊本
(副賞クサカベ賞)
 白日賞 肝付 道明 (彫刻) 愛知

準会員奨励賞 宮本 絵梨 (絵画) 東京
(副賞平澤篤賞)
 準会員奨励賞 柳田 也寿志 (絵画) 長崎
 準会員奨励賞 西沢 明比兒 (彫刻) 長野
 会友奨励賞 佐藤 真衣子 (絵画) 東京
 会友奨励賞

法人寄託賞

梅田画廊賞 田中 真季 (絵画) 熊本
 アートもりもと賞 友清 大介 (絵画) 神奈川
 関西画廊賞 吉岡 諒二 (絵画) 奈良
 大有美術賞 宇田川 格 (絵画) 埼玉
 美岳画廊賞 河菜 直子 (絵画) 広島
 ギャラリー大井賞 都志 真優奈 (絵画) 大阪
 瀧川画廊賞 的崎 裕子 (絵画) 岡山
 ギャラリーアーク賞 宮本 絵梨 (絵画) 東京

【絵画】

● 会員推挙

浅井 敏 愛知
 池内 孝美 東京
 植野 綾 熊本
 上野 乃武彌 奈良
 大平 嘉和 神奈川
 緒方 かな子 広島
 小川 雅史 岡山
 尾崎 浩美 京都
 小野 月世 東京
 栗原 公江 栃木
 小林 英雄 栃木
 酒井 恵子 千葉
 榎原 武二 栃木
 須藤 百合子 栃木
 住井 ますみ 広島
 関口 健司 埼玉
 高松 遙子 静岡
 田中 孝知 京都
 友清 大介 神奈川
 長澤 和子 埼玉
 永田 和之 熊本
 中道 佐江 京都
 栄岩 伸治 長崎
 原 太一 千葉
 藤川 弘康 広島

【彫刻】

丸山 一夫	新 潟
港井 里佳	千 葉
宮本 絵梨	東 京
村上 ゆたか	兵 庫
柳田 也寿志	長 崎
矢部 仁子	栃 木
渡辺 良子	栃 木
渡辺 純夫	埼 玉
渡辺 幸代	愛 知
西沢 明比児	長 野
林 淳一郎	大 分

●準会員推挙

【絵画】

有川 利郎	埼 玉
石井 直美	山 口
稲垣 晴代	東 京
岩本 将弥	福 岡
大根田登美子	栃 木
小椋 喜公	大 阪
片岡 恵子	岡 山
神尾 昌義	静 岡
川畑 太	奈 良
久保 君代	大 阪
河野 建作	千 葉
児島 慎太郎	岡 山
佐藤 真衣子	東 京
田中 秀敏	大 阪
茅原 佳介	福 島
千村 さく子	神 奈 川
徳永 敏	鹿 児 島
中沢 ゆかり	長 野

【彫刻】

中島 あけみ	東 京
中村 成代	三 重
中村 彰吾	大 阪
蛭町 やい子	栃 木
藤森 直樹	千 葉
船田 昌宏	栃 木
真島 終	東 京
松田 喜美子	静 岡
的崎 裕子	岡 山
宮本 佳子	広 島
森山 秀樹	長 野
ヤダシントロウ	埼 玉
山本 周	大 阪
大林 初子	大 阪
丸田 多賀美	鹿 児 島

●会友推挙

【絵画】

赤堀 祐子	静 岡
石濱 阿里紗	奈 良
井出 昭	神 奈 川
稲垣 元子	三 重
岩崎 喜美子	栃 木
江川 和之	長 崎
柏崎 睦子	栃 木
菊地 裕一	茨 城
熊田 孝	大 分
久留島 透子	大 分
光華 みつこ	兵 庫
竹内 明男	長 野
田中 真季	熊 本
都志 真優奈	大 阪

【彫刻】

徳永 秀之	千 葉
西家 晶子	広 島
西ヶ谷 千鶴子	静 岡
西田 佳世	熊 本
幅 宏二郎	愛 知
浜崎 寿子	岡 山
松村 はるか	熊 本
松村 盛仁	熊 本
元田 太	神 奈 川
百田 潤一	大 阪
肝付 道明	愛 知

特別賞審査員

内閣総理大臣賞 瀧 悌三先生
 文部科学大臣賞 土方 明司先生

受賞作品紹介

特別賞



文部科学大臣賞

池田良則

西陽のチュニジア
P 100



内閣総理大臣賞

河野桂一郎

はじまり
P 80



富田温一郎賞

丸山一夫

黒い静物
F 100



中沢弘光賞

清家悟

心音
49 × 43 × 30cm



SOMPO美術館賞
果醐季乃子

尾道風景 渡船のある町
F 100



平松讓賞

広田稔

夜のカフェ
S 100



伊藤清永賞

岡田高弘

記憶の残像
S 100



吉田三郎賞

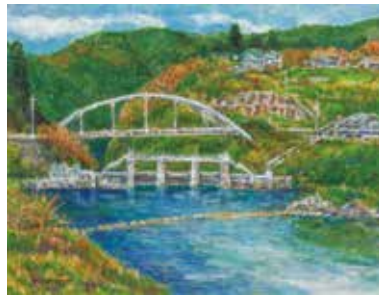
佐藤順一

東風吹かば II
105 × 140 × 80cm



稲葉瑞穂

朝光不二
P 100



伊藤和義

秋映高遠湖
F 80

八咫鳥賞 (特別賞)
47回展推挙



立川和枝

人形とジャワ更紗〔VI〕
F 60



下時治郎秀臣

明日の春
F 100



小河美智子

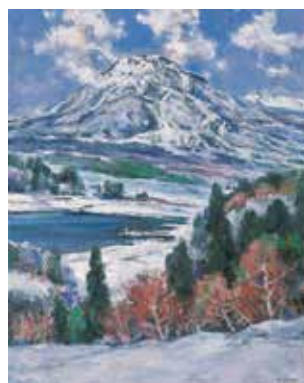
街の花屋
F 80



前川英雄

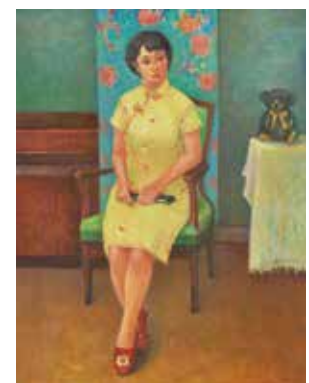


初夏・羊雲舞う
F50 (95回展出品)



三澤忠

黒姫山
F100



浜口大蔵



室内
F 80

会 賞

白日賞 (副賞ホルベイン賞)

有川利郎



真如の月
M 100

白日賞 (副賞クサカベ賞)
梅田画廊賞

田中真季



Night
F100

白日賞

肝付道明



ゆう 5
180 × 50 × 50cm

準会員奨励賞 (副賞平澤篤賞)
ギャラリーアーク賞

宮本 絵梨



春
F 80

準会員奨励賞

柳田也寿志



ここなる
F 130

準会員奨励賞

西沢明比呂



ミネルバの泉
121 × 56 × 38cm

会友奨励賞

コルドバツチエ・マンストール



少女のカゴの中
F 120

会友奨励賞

佐藤真衣子

一般佳作賞

ギャラリー大井賞

都志真優奈



ぼくときみ
M 120



マキ
70 × 60 × 40cm



通勤
F 80

一般佳作賞
関西画廊賞
吉岡諒二



Kitchen
F 120

一般佳作賞 (副賞マツダ賞)
松村盛仁



ひとりでのぼる
F 100

一般佳作賞
松村はるか



ripple
F 100

アートもりもと賞
友清大介



ひるねの時間
30 × 70 × 40cm

一般佳作賞
丸田多賀美



大きい末っ子
123 × 35 × 45cm

一般佳作賞
服部亜美



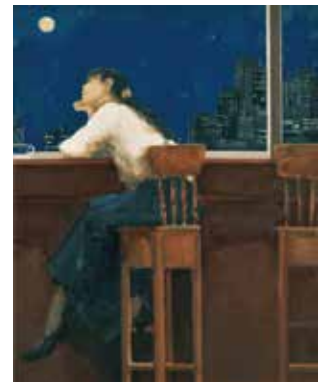
幕間
F 100

瀧川画廊賞
的崎裕子



遠くへ行きたい
P 100

美岳画廊賞
河菜直子



Moon Light
F 100

大有美術賞
宇田川格



50年に亘って在籍された方に授与される八咫鳥賞。今年は絵画部で八名の方が受賞されました。

受賞者の皆様へ、受賞にあたり思い思いの内容でと、ご寄稿をお願いしました。

伊藤 和義（会員） 47回展 会友推荐

「受賞にあたって」

『八咫鳥賞』をいただきありがとうございます。白日会に出品するきっかけは、先輩たちに誘われて、岩月光金先生の教室に参加し木炭デッサンを教えて頂いたことから始まりました。そして数年後に本展に出品、初入选した時は上京して都美術館で飾られた壁面を見たときは感慨無量でした。その後は研究会に参加して、諸先生方のアドバイスを受けながら毎年出品してまいりました。

その後、名古屋展が開かれるようになり、伊藤清永先生が来名される機会が来、直接指導を頂けるようになりました。清永先生の口癖は「君たちは次の時代を

担う若者たちのための環境を作れよ」でした。

その後、風景を描くために、各地を訪ねて歩き、スケッチを楽しんでおります。

特に信州が大好きで、季節ごとに出かけました。ある機会があり、三澤 忠先生にお会いし、中部支部の仲間とアトリエを訪問もさせていただいたり、雪の信州を描く所を案内していただくことも出来ました。

2008年の中山忠彦「永遠の女神展」で先生ご夫妻に幾度もお会いしその人望に感銘を受けました。

夏の中山アカデミーにも参加し、中山忠彦先生や皆さんの描く真剣な姿勢に刺激を受け、勉強してまいりました。

又、徳島の河田安市大先輩からの頂いたお言葉「何度も訪ね、観ることのできる場所を見つけて描きなさい」も忘れることができません。

ある期間、支部の仕事を微力ながらお手伝い出来たことにも感謝しています。これからも勉強して出品を続けてたいと日々健康管理に心掛けております。

故深澤孝哉先生には長年にわたり名古屋展の飾り付けの指導に来て下さり、いつも温泉饅頭をみやげに持参して来られた事が忘れられません。美味しかったです。

稲葉 瑞穂（会員） 47回展 会友推荐

「思うがままに」

子供の頃映画館の前で、大きな看板製作を半日近く観ていた事がある。富士をバックに片岡千恵蔵の清水の次郎長が完成した。

二十才を過ぎた頃小さな酒場で一人の画家に出会った、話をするうち画家の生きざまに共感した。酒の飲み方だけはしっかりと伝授された。画家との出会いが絵筆を握るきっかけになったのかも。

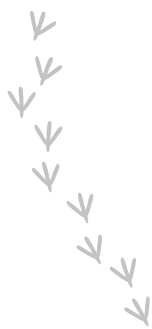
初出品が四十六回展、初めての会場で自分の作品のなんと情無いことが愕然としたのを今でも忘れられず思い出す。

半世紀も続けられたのは、パステル画の木下昂先生との出会いでした。会友に推荐された年だったと思う、仕事中に常務取締役からの突然の呼び出し、一面識も無いのに何事かと出向くと、穏やかな表情で迎えて下さった常務が木下先生でした。会場では、事務所の村上鉄太郎先生、石崎五郎先生など多くの先生方を紹介していたとき、会うたびに「仕事はいいから絵だけは続けるように」と励まされました。

一度だけ静岡で巡回展が開催された事がある、当時は深く考える事も無く、毎年巡って来るものと、先生方の指示に従って飾り付け作業などを行っていた。

当時の新聞の切り抜きによると、「白日会静岡展」とか「第59回白日展」等数回にわたる報道、また鑑賞の手引きとして柳沢淑郎先生、黒沢信男先生、伊藤清永先生、深澤孝哉先生、平松讓先生、の順で毎日掲載。当時の新聞には、本県への誘致運動を進めてきた故池田正司先生のご遺志をくんで本県で初めての開催となった。本展、名古屋展に続く地方巡回展と記されている。当時の支部長河西堅太郎先生のご苦勞にただただ感謝するのみ。

深澤孝哉先生には伊東市に移住されてから三十年余りお世話になりました。支部の発展の為にご尽力頂いた深澤先生のご冥福をお祈りいたします。



下時治郎秀臣（会員）

47回展 会友推挙



「八咫鳥賞を受賞して」

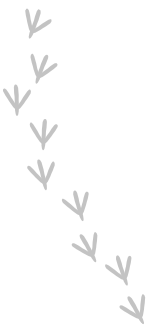
この度は八咫鳥賞を頂き有難うございました。五十年の間には多くの方との出会いや別れがあり作品や人柄が惚ぼれて懐かしさが込み上げてきます。白日会の一員で幸せだったと感慨深いものがあります。

私は人口五百人足らずの山奥で生まれました。四方山に囲まれた山あいの小さな学校へ（膝で鼻を突く）と言われる程急で細い坂道を往復二時間余り十年間通いました。二、三十年の間に殆どどの人が村を出て行き今では民家も風化し廃村状態になってしまいました。故郷が消えることは哀しいことです。十五才の時家族は村の暮らしを捨て大阪へ出ましたが私だけ隣の親類の家へ仕事を手伝うのを条件に高校に…そこで美術クラブの顧問の河田安市先生と出逢い朝夕熱心に指導して頂き、基本の大事やひたむきな姿勢を学びました。卒業後は望まない

仕事でもあり夢も希望もなく荒れた生活を続ける中唯一の救いが絵をかく事でした。二十一才の時先生の勧めで白日会に初出品し白日賞を頂き翌年会友に推挙されました。何も解からぬままの始まり

だったのですぐ行き詰っていた時先生に伴われ伊藤清永先生を訪ねました。初めて御会いし、先生の大きなオーラに圧倒され一言も話す事は出来ませんでした。その後十数年上京の度に御訪ねし御言葉

を頂きました。一言一句心に沁みました。厳しく優しくその言葉は今も心の支えとなっています。物理的精神的に出品は無理な時が何回もありましたが「人は皆それぞれ悲しみや苦しみを背負って生きている。強い気持ちを持たないといひ絵はかけないよ」と励まされました。禍福は糾える縄の如しと心に留め何とか続けて来る事が出来ました。続ける事が作品が良くなる事とは言えませんが続ける事で今日見えなかった何かが明日は見えるかもと淡い希望を持ち、心を込めて描き続けていきたいと思えます。御世話頂いている方々に心より感謝申し上げます。



立川和枝（会員） 47回展 会友推挙
「八咫鳥賞受賞にて」

展覧会準備の色々な係の仕事で出品作を運送屋さんを手渡した直後から毎日、大変な思いを致しましたが「若さ」でガンバレタと思っております。お陰様で大きい展覧会開催の大変さを経験出来ました。原稿を鉄筆で書き印刷（手動）しました。原稿を鉄筆で書き印刷（手動）したり、とに角早朝から夕方迄、毎日大変でした事は忘れる事が出来ません。五十年間、よく続いたと自分乍ら感心する程です。今はお若い方々が増え、仕事は機械化が多くなりよかったです。仕事は機械化が多くなりよかったです。皆様には迷惑をおかけしない内に）を考えるようになります。白日会が末永く続きます事を切望致し乍ら失礼させていただきます。



三澤忠（顧問・会員）

47回展 会員推挙

「八咫鳥賞を受賞して」

八咫鳥賞、有難うございました。あれから五十年も過ぎたのかとの思いです。この五十年間自分は何をして来たのだろうかと反省ばかり、第四十七回展に耳野卯三郎先生のお世話で入会しました。入会当時の白日会から見ると、今は皆さんの努力によって立派に若返り間もなく百回展を迎えます。白日会創立百周年記念展には元気で居て、皆さんと一緒に祝いたいと願っています。



浜口大蔵さん、前川英雄さんは、八咫鳥賞をご受賞され、文章をご寄稿頂いた後、ご逝去されました。
ここに哀悼の意を表しつつ、ご紹介させていただきます。

浜口大蔵（会員）

47回展 会友推挙
令和三年七月逝去



「八咫鳥賞受賞にあたって」

この度、第97回白日会展において、諸先生方のお陰で特別賞を頂き、心から感謝申し上げます。

戦後の混乱期に絵をはじめました。幸い郷土に白日会の会員として活躍されていた故長井幸一先生の進言で、初めて出品した「八鬼山」（現在は熊野古道として世界遺産として認定されている。）が初入選し、以降半世紀以上にわたり今日まで出品を続けて来ました。

昭和47年に「紅柄工場」で準会員推挙、

M氏賞受賞、昭和54年に「真鶴の港」で会員推挙していただきました。

60年記念展では、当時白日会展は、都美術館で開催され、懇親会も上野の森にある精養軒で行われ、私も初めて参加しました。その折諸先生方とお会い出来、会話をさせていただいたことが思い浮かびます。敬称は略させていただきましたが、記憶に残っている諸先生は、中山忠彦会長、故伊藤清永前会長、故平松謙、故深澤孝哉、三澤忠、黒沢信男、野田弘志、故森谷重夫、故宮原鹿蔵、故駒田治夫、故浜口佐蔵、故伊勢崎勝人、石垣定哉、井阪仁、石倉豊、ジュディ・オング情玉さんの方々です。会場が最高に盛り上がり上がったところで、故深澤先生が「およげ、たいやきくん」の熱唱、ジュディ・オングさんのグループによる演奏を聞かせていただいたことが懐かしく心に深く残っております。

また、私が東京在住のとき、白日会有志の皆さんと一緒に箱根に泊で写生に参加、その夜互評会を遅くまで行ったことが記憶に残っております。

もう一つの思い出は、真鶴に何度か通って港が一望できる岡から写生していたとき、近くにお住まいの方からコーヒの差し入れしていただいたことに恐縮しましたが、その方の言うには、この真鶴に有名な中川一政先生のアトリエがあることを聞かされました。

思い出は戻りませんが、私にとつて、あの時のことが思い浮かんできます。

先日は、寺久保先生、事務所の方からも温かいお言葉をいただきました。

三月に入り、約一ヶ月程入院の後ようやく退院することが出来ましたが、昭和6年生まれの私にとつて、体力的にも展覧会に出品することが出来ませんが、これからも小品を主に絵を続けていきたいと考えております。

前川英雄（準会員）47回展 会友推挙

令和三年七月逝去



第97回白日会展「八咫鳥賞を受賞して」

この度、令和三年三月十七日付、白日会本部より、右記「八咫鳥賞」授与の報を頂き、謹んで受領申し上げます。有りがとうございます。

私の永年の油彩制作活動として、全国美術公募団体「白日会」への出展も半世紀を数え、今月五月七日は、私の誕生日を

迎え、八十三才を数えました。

白日会札幌支部時代との関りは、岩見沢からJRで三十五分程でしょうか、札幌の市街地に住まわれていた平野俊昌先生のご交誼を頂き、白日会の会員はもとより、多くの在住画家、文化人との交流や支部活動でお世話になりました。

昭和四十四年三月十八日から三十一日まで東京上野都立美術館で開催された第四五回白日会展に「函館西浜岸壁」F四〇号、「雪の函館」F五〇号の二作品を初出品させて頂いたところ、無事入選の報を頂き、支部メンバーの皆さんとの交流を深めて頂く事が出来ました。

私の白日会での所属経過は、第四七回展で「会友」、第五一回展にて、「準会員」推薦に至りました。当会はもとより、芸術院会員、多くの著名作家の皆様に刺激されながら、白日会生活も半世紀を辿ることが出来ました。

そして、この歩みは、私共夫婦、家族の歩みと共にあったことを一層の喜びとするところです。

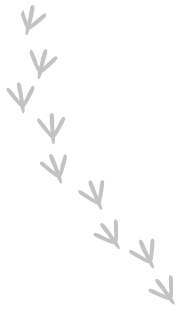
近年の私の出展は、第九四回展に岩見沢の中心市街地、萩園公園の千寿橋と桜の紅葉をテーマにF八〇号を、第九五回展については、春の息吹を心地よく伝える郊外のケキシヨップ「メープル倶楽部」の「羊雲舞」を出品しております。

その後、予期せぬ事態として、心筋梗塞、更に二年後には、脳梗塞により、双方

共にそれぞれ三週間程の入院生活となり、第九六回、第九七回展は、体力及ばず、残念ながら欠展のやむなきに至りました。

晩年二度の欠展は、最早これまでかの思いでありましたが、そんな折、全く思いがけずに「八咫鳥賞」受賞の報を頂き、今は、病の後遺症を奮起に変えて挑みたいものと存じます。有難うございました。

令和三年五月三十一日 敬具



創立100周年に向けて

白日会では、創立100周年に向けて、故人の情報を集め調査しております。資料等お心当たりのある方は、白日会事務所までお知らせ頂ければ幸いです。

創立会員18名

中沢弘光・川島理二郎・南薫造・辻永・富田温一郎・吉田三郎(彫)・小寺健吉・鈴木良二・鈴木秀雄・近藤浩一路・岡本一平・池部均・笠原鞆・栗原忠二・相馬其一・北島浅一・柚木久太・三上知治

※10回展までにはほぼ半数が退会、戦後(18回展)以降は中澤・富田・吉田の三名のみが創立会員として在籍している。(三者の名を冠した特別賞がある。)



▶ 第16回展目録表紙挿絵 村上鉄太郎・画

第2回展以降重要会員(公募展化以降)

間部時雄・木村珪司(彫)・香田勝太・小西正太郎・大久保喜一・相田直彦(水)・棟方志功・秋元松子・村上鉄太郎・無縁寺心澄・長明・野呂良一呂・熊谷登久平・刑部人・伊藤五百亀(彫)・能勢亀太郎・伊藤清永・小堀進・古川弘・岩月光金・灰野文一郎・川島実・島村三七雄・川村精一郎・川口栄・笹岡了一・広本了・篠原薫・富山芳男・笹野恵三(彫)・富田匠美(彫)・平松譲・柳澤叔郎・伊藤利行等

※昭和に入り、世界恐慌、内外の事変、戦争と戦災、戦後復興から高度経済成長に向かい行く中、当会の発展に尽力された主な先達です。現在不明な先達も多くあります。情報をお寄せください。

※なお、各支部には、支部史の編纂をお願いしております。

第97回展 総会概要

令和3年(2021) 11月14日 16時〜精養軒
 ※8月1日に予定されていた総会は、新型コロナウイルスの急増と東京オリンピックとの重なりを考慮し、昨年に続き延期となりました。
 会員38名の出席と会員212名の委任状により、以下のことが承認されました。
 同日14時より行われました常任委員会を経て、97回展事業報告、97回展決算報告、98回展事業計画、98回展予算が承認されました。※在籍者には総会報告として別紙が郵送されています。以下決定事項を報告します。

第98回展にむけて

常任委員会での決定事項。新型コロナウイルス対策の継続の方向をとって、97回展同様に、懇親会、イベントは中止、授賞式は縮小形式で行います。研究会についても、新型コロナウイルスの状況を鑑みながら、本部研究会と地方研究会との総合判断を、会長と副会長で決定していきます。

副会長について

山本真輔副会長は、80歳の定年を過ぎましたが、現状を鑑み副会長の任を継続して頂くこととなりました。

審査員

先の常任委員会にて、98回展の審査員を決定しました。(常任委員は全て審査員)
 絵画… 今井喬裕 大路誠 曾剣雄 牧内則雄 松本貴子 吉成浩昭 和田直樹
 彫刻… 野原昌代 江藤望 佐藤順一

第98回白日会展スケジュール

3月13日(日)	搬入	会期：令和4年3月23日(水)〜4月4日(月) 会場：国立新美術館2F(2A・2B・2C・2D)
14日(月)	搬入	
15日(火)	鑑審査(入選・落選)	
16日(水)	鑑審査(賞選定(含)・推挙)・発表事務	
17日(木)	部屋割り・陳列準備	
18日(金)	名札 / 作品移動	
22日(火)	陳列・賞選定(特・法)・巡回展選定	
23日(水)	初日・授賞式(美術館講堂)「予定」 / 選外搬出	
29日(火)	休館日	
4月4日(月)	閉会(15:00) / 作品撤去	
5日(火)	搬出 (4月6日(水) 彩美堂業者搬出)	

事業計画表

令和4年	2月	3月	4月	6月	7月	8月	9月	12月
	13日	23日〜4月4日	12日〜17日	8日〜14日	3日	5日予定	4日	日付未定
	研究会(日展会館) 中止	白日会展(国立新美術館) ※詳細は左記参照	名古屋巡回展(愛知県美術館ギャラリー)	関西巡回展(あべのハルカス近鉄本店ウィング館8階) 白濁会展(あべのハルカス近鉄本店タワー館11階)	研究会(日展会館)	総会(上野精養軒)	明日の白日会展(日本橋高島屋)	研究会(日展会館)
							三越選抜展(日本橋三越本店)	

展覧会記録 個展・主なグループ展

令和二年十一月

広田稔展 日本橋三越本店
福井欧夏 洋画展 福山天満屋

十二月

長船善祐 油彩画展 静岡伊勢丹
大沼紘一朗 渋谷東急本店

大山富夫展 銀座 画廊宮坂
山崎幹雄スケッチ展 足利銀行岡本店

令和三年一月

小林聡一 油絵展 阪神梅田本店

二月

岡田高弘 個展 銀座 光画廊
冬の北海道紀行 横浜 ギャラリーミロ
岡田高弘 佐藤陽也 広田稔

STILL LIFE

銀座 ギャラリー・サロンドエス 岡田高弘 広田稔
原太一 油絵展 阪急梅田本店

三月

長船善祐 油彩画展 札幌三越
長坂誠展 銀座 ギャラリーアートもりもと

銀座 ギャラリーアートもりもと

ソレイユブラン展 渋谷東急本店

foresight 友清大介×山本周×吉間春樹

乃木坂 GALLERY NAO

長船善祐 油彩画展 山口井筒屋

山根隆 油彩画展 結城蔵美術館

三澤忠展 中野陣屋・県庁記念館

松本実桜展 銀座 ギャラリーアートもりもと

山内大介展 横浜高島屋

四月

前田恵美子 個展 名古屋 妙高園画廊

関口雅文展 横浜 ギャラリーアーク

西沢貴子展 銀座 画廊宮坂

現代作家美術展 新宿 ギャラリー絵夢

関口雅文 寺久保文宣

五月

長船善祐 岩手 ギャラリーカワトク

山本浩之 水彩画展 近鉄百貨店四日市店

六月

久保尚子 油彩画展 姫路 山陽百貨店

第七章 西翔展 大阪 画廊大千

河野桂一郎 富所龍人 福井欧夏

大路誠 洋画展 日本橋三越本店

広田稔展 2021

あべのハルカス近鉄本店

しづや美術館

七月

阪脇郁子展 京都高島屋

長船善祐 油彩画展 福岡 行橋志増田美術館

白田彩乃 個展 銀座 光画廊

斎藤秀夫 油絵展 新宿 京王百貨店

廣田稔展 福山天満屋

八月

和田直樹展 横浜高島屋

伊藤和義 作品展 愛知 知多信用金庫本部棟

大山富夫展 銀座 画廊宮坂

長船善祐 油彩画展 仙台三越

春の大方紀行 横浜 仲通りギャラリー

岡田高弘 佐藤陽也 広田稔

かくかく展 横浜 ギャラリーミロ

宇田川格 大平嘉和 納義純 佐藤陽也 西沢貴子

吉住裕美 吉成浩昭

2021—吉田直末の世界—展 秋田 ギャラリーあい

九月

長船善祐 油彩画展 福岡三越

岡田高弘展 横浜高島屋

阿佐美展 新宿 ギャラリー絵夢

高梨芳美 西谷之男

吉成浩昭 個展 銀座 光画廊

油彩クローッキー展 横浜 ギャラリーミロ

岡田高弘 佐藤陽也 杉本幸江 白田彩乃 広田稔

津絵太陽展 日本橋高島屋

長船善祐 油彩画展 一畑百貨店松江店

北海道ロビー絵画展 新宿 ギャラリー絵夢

高梨芳美 神山晃一 塚原貴之

フォルスアンフィニ展 大阪 瀧川画廊

「それぞれの道」展 親子3人展 名古屋 日動画廊

山本眞輔

十月

原太一 個展 横浜 art Truth

第6回 塚原貴之 油絵展 水戸 京成百貨店

4th 皎の会 木原和敏 熊谷有展 児玉健二 関口雅文

寺久保文宣 広田稔 堀井聡 山本桂右 和田直樹

和田直樹展 横浜 ギャラリーアーク

長船善祐 油彩画展 広島三越

徳田明子 水彩画展 美岳画廊

アルナイルの会 大阪 ギャラリー VEGA

大路誠 大木基彰 大林初子 久保君代 佐々木和子 三箇大介 中西令 平田英子 百田潤一

會美之会 絵画展 鳥取大丸

有田巧 中谷晃 中村彰吾

長船善祐 油彩画展 大分 トキハ本店

十一月

福井欧夏 油絵展 渋谷東急本店

まほろば 佐久に咲く素描展 2021 新宿 ギャラリー絵夢

岡田高弘 広田稔 村山きおえ

100枚のクロッキー展

フェイアートミュージアムヨコハマ

岡田高弘 広田稔

「人間讃歌」山本眞輔彫刻展

西尾市幡豆ふれあいセンター

曾剣雄洋画展 豊田市民文化会館

山内大介油絵展 渋谷東急本店

広田稔展 銀座 ギャラリー和田

佐藤洋子絵画展 結城蔵美術館

十二月

長船善祐油彩画展 静岡伊勢丹

名古屋栄三越

—広田稔が描く—『令和の富岳展』

松坂屋名古屋展

第24回アニマート展

横浜 ギャラリーアーク

広田稔 納義純 果酬季乃子 佐藤陽也

関口雅文 長谷川晶子 吉成浩昭 和田直樹

木原和敏展 銀座 画廊宮坂

※紙面の関係上、会員の個展及び主なグループ展のみの掲載となっておりますが、ご了承ください。ホームページでは白日会事務所にお知らせくださった在籍者（会友以上）の展覧会はすべて掲載しております。

ホームページの展覧会掲載について

白日会ホームページにある在籍者（会友以上）の展覧会情報に掲載をご希望の方は、白日会事務所まで展覧会のDM等を郵送またはメールにてお送りください。

お知らせ

事務所の業務時間の短縮について

現在、感染症拡大防止のため、白日会事務所の業務時間を短縮しております。お問い合わせはできる限りメールにてお願いいたします。

お電話やFAXの場合はご返答に時間を頂く場合がございますが、ご理解の程よろしくお願いいたします。

訃報

佐野 源次 令和3年1月逝去

石垣 弘 令和3年3月逝去

浜口 大蔵 令和3年7月逝去

前川 英雄 第97回展八咫鳥賞受賞 令和3年7月逝去

草野 好夫 令和3年12月逝去

柴田 祐作（顧問） 令和3年12月逝去

石倉 豊 令和4年1月逝去

※訃報の掲載は会員のみとなります。

※次号、柴田祐作先生の追悼文を掲載予定しております。

編集後記

会報は夏の総会報告も兼ねます。昨年到现在、この夏の総会が新型感染症を考慮して延期となり、11月14日に、秋の総会と合同となりましたので、例年9月の発行が2月となりました。大変遅くなりましたことをお詫び申し上げますと共にご理解ください。

一昨年よりカラーに刷新された本会報は、白日会の会員・準会員・会友、そして一般出品の方々、さらに白日会の来賓の先生方や関係各種の方々、諸団体や業者関連の皆様にお届けしております。

今年は八咫鳥賞受賞者が8名と多くありました。皆、47回展から会友以上の推挙となり、白日会の在籍者となられた方々です。受賞後に浜口大蔵さんと前川英雄さんが急逝されたことは大変残念でありました。謹んでご冥福をお祈りいたします。一昨年ご逝去された深澤孝哉先生も第47回展に初出品され会員推挙となられたので、ご存命であれば八咫鳥賞の受賞でした。この97回展で深澤先生の発表の本拠地であった名古屋にて96回展に公開できなかった遺作全点が展示できましたことは幸いです。同じく47回展に初出品され

会員推挙された三澤忠先生は、長野の雪の中でお元気に制作に励まれておられます。第47回展の会友推挙者数は、当時の同年の推挙者数とそれほど変わらないので、花の47回展と言えるかも知れません。100周年まであと2年あまりとなりました。その頃にはこの新型感染症も落ち着き晴れ晴れしい気持ちで迎えらることを願います。現在、令和4年の1月末から、新型感染症（オミクロン株）対応として、まん延防止等重点措置が首都圏他から発令されました。白日会がそれに臨む姿勢は、昨年とこのたびの本会報により明らかにされていると思えますので、その上で個々には自他や状況を鑑みながら、今まで培ってきた協力と協調のしなやかなる力により、未だ続く難局にあたっていけたらと思います。皆様のご健康をお祈りしつつ、第98回展の無事開催を祈念いたします。

発行 白日会事務所
寺久保文宣 阿辺隆 小河美智子
神山晃一 久保尚子 吉田純子
印刷 六光社